

# みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G  
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)  
FAX63-5139

## 今月の表紙

今月の表紙は、相見駅の噴水のライトアップです。毎日、午後7時〜9時の間に見ることが出来ます。噴水がカラフルなライトに照らされ、幻想的な景色が現われます。午前10時〜午後3時までの間も噴水は出ていますので、お子さんを連れて「ココ」でちよっと水遊びをするのも楽しいですね♪



## 行って! 見て! 納得! こうたの歴史

### 大草陣屋

大草陣屋は江戸時代、大草村を治めるために大草字仲切に置かれていた役所です。現在、現地には陣屋の跡はありませんが、昔はこの一帯を「お陣屋」と呼んでいたようです。

大草村に陣屋が置かれたのは江戸時代初めの元和元年（1615）。深溝松平氏の一族である松平忠隆が幕府より大草村1000石の領地を貰い、旗本松平氏が成立しました。

大草陣屋の松平氏は徳川氏の親戚であり、将軍に直接仕える仕事が多かったため、代々の当主は江戸に住み、陣屋の経営や領地支配は代官と呼ばれる地元の有力者が行うことが多かったようです。

大草村は慶長6年（1601）に深溝松平氏5代当主松平忠利が深溝西郡藩主として赴任して来て以降、慶長17年まで深溝松平氏の支配地でした。その後4年間、幕府による支配がありましたが、1615年からは松平忠隆による大草陣屋

の支配となったので、江戸時代を通して深溝松平氏と結びついた地域であったといえます。

この大草陣屋3代目の松平伊行の子どもに松平忠雄という男子がいました。この人物こそ、深溝の本光寺にあるお墓からヨーロッパ製のガラスや小判が出土して一躍有名となった島原藩のお殿さまです。忠雄は跡継ぎのいなかった深溝松平家本家に養子として入りました。九州島原は深溝だけでなく、実は大草とも強いつながりがあるのです。



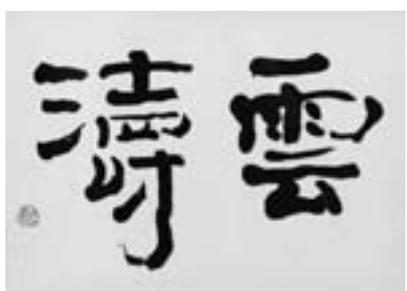
【参考資料：大草昭和風土記】  
問合せ 生涯学習課生涯学習G（内線195）

## みんなの作品展!

平成25年度 春の文化展  
書道展からのセレクトです



鈴木 芳泉 さん



安藤 松雲 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入の上、企画政策課広報広聴Gまでお送りください。(デジカメ写真の場合はメールで)

## 「やい」

7月。畑には太陽の恵み、今年もたくさん夏の野菜がとれましたね…  
「やいしゃー、箱やあげたで、持ってきこ」

「それでは、箱ごと差し上げたから、持って行きなやろ」  
とこの意味です。

この「やい」は、共通語の「い」と同じく、名詞に付いて、それを含めて全部の意味を表す接尾語です。「やい」は、副詞「ことごとく」の転訛とされていますが、では、「やい」は…。

副詞として現在も使う「やいこ」、古文でおなじみの「やいなり」「それに」「まっさくらも」「やら地」も、新しいこと、改めることを表す「やろ(更)」「から成り、この地方の「やい」とは、意味も用法も異なります。

よく似た動詞「やいやる」があります。川などにたまった土砂を取り除くことですが、食器に残さず食べることも「やいやる」という地方が関西を中心にあります。やいこ、「総やいえ」といえば「在庫一掃」ですから、残さず全部取り除けば「やい」になります。やいこは、この地方の「やい」も…。

(文・こた)



青春トークリレー  
第244走者

かとう たくや  
加藤 拓也 さん

岩堀区在住 22歳 社会人  
身長 173cm 血液型 A型  
好きなタイプ 正直で元気でよく  
笑う人  
好きな芸能人 大泉 洋

時が経つのは驚くほど早く、私もあっという間に22歳。大学生生活は何もかもが充実していて、一つの後悔もありません。

4月から、ついに社会人として働き始めました。私は当時、進路の選択について大変悩みました。本当に進むべき道はここでのいいの、後悔はしていないかと、何度も自問自答しました。その時、大学の恩師の先生が「自分の進む道が正しいかなんて、誰も分からない。それなら、自分の力で正しい道にしていけばいい。」と声を掛けてくださいました。

今はもう、自分の進路に迷いはありません。常に目標をもち、周りの人への感謝を忘れず、自分の決めた道を自信をもって歩んでいきたいと思います。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。  
希望者は企画政策課まで。



5月のある日、散歩に出かけた年長組の子どもたち。途中で、わした保育園の子どもたちが、川遊びをしているところを発見！

わんぱくどより

「某月某日  
菱池保育園」

楽しかったね 川遊び

園に戻ると「いいなあ。川にいきたくないなあ。」先生、今度川に行こうよ！と、子どもたちから意見が出てきて盛り上がり、必要なものなど話し合い計画を立てました。

ザルや網、バケツを持って意気揚々と歩く子どもたち。いよいよ川の中へ入ると、うれしくて水の中を「キヤーキヤー」と言って駆け回る子。泳ぎ始める子。網やザルを持って獲物はないか探索する子。その横で友だちを応援している子も…。



魚、シジミなど続々と捕まえて、満面の笑みでバケツに入れていました。捕まえてきた生き物は、水槽に入れて飼っています。じつと覗き込みながら、楽しかった川遊びを思い出しては友達との会話に花を咲かせています。

ちびと編集者のわいわい

▼インターネットを見ていたある日のこと、偶然、見知らぬ人のブログが目にとまりました。

その内容は、広報こうたの1カ月の出生児の氏名が書かれている欄に娘さんの名前が掲載されていることを喜び、「この子が大きくなって、広報こうたの出生の欄を見ているときに、あなたも載ったのよ」と当時の広報紙を娘に見せてあげることが、今の私の夢です。大切に保存しなきゃ。」と書かれました。たまたま見たこのステキな話に、この仕事へのやりがいを感じることができました。

この氏名のコーナーはとても人気です。名前が時代を感じることもできます。保護者の皆さんが、希望と願いを込め、考えに考えた名前を見ている、これからの明るい未来を願うほかありません☆

先日、僕もちよっと書庫に行き、保存されている古い広報紙を探してみました。僕の名前も30年前の広報紙にちゃんと載っていました。そしてその上下にたくさん書かれていた名前も、幸田の同級生なので、今となっては、知っている名前ばかり。何か、感慨深いものがありました。

来年の平成26年8月1日、幸田町と豊坂村が合併し、今の幸田町になって60周年。まだまだ成長課程にある町です。これからも、掲載した赤ちゃんたちのように一歩一歩進んでいくのですね。またこの町にんだか愛着が湧いた、そんな出来事でした。まじめ！どつしたんだ、編集者〜笑(下)